

## 特別展示 ル・コルビュジエの建築模型

2016年10月25日(火)～2017年3月26日(日)

### 祝・世界遺産登録。改めて知るコルビュジエ建築の魅力

「ル・コルビュジエの建築作品 -近代建築運動への顕著な貢献-」が2016年7月にイスタンブールで開催された第40回世界遺産委員会において、世界遺産一覧表に登録されることが決定されました。7カ国17作品の構成遺産の中には日本の国立西洋美術館も含まれ、大きな話題になりました。

広島市現代美術館は、ル・コルビュジエの建築模型20点を資料として所蔵しています。それらは元々、広島市現代美術館の建物を設計した黒川紀章氏の呼びかけにより全国の大学の建築学科が連携し、多くの学生たちの手によって制作されたものです。そのうち世界遺産にも登録された3作品《ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸》《ロンシャンの礼拝堂》《ラ・トゥーレットの修道院》の建築模型を、このたび特別展示としてご紹介します。

黒川氏はル・コルビュジエから受けた影響を度々語っています。その黒川氏が手がけたこの建築空間の中で、近代建築の始祖とうたわれるル・コルビュジエの建築思想と向き合う体験は、数多くの発見をもたらしてくれるにちがいありません。

#### ル・コルビュジエ (1887-1965) /

スイスで生まれ、フランスで活躍した建築家。モダニズム建築の礎を築いた20世紀を代表する建築家であり「近代建築の三大巨匠」と呼ばれる。実践に理論を並行させ、鉄筋コンクリートを活用した建築理論「ドミノ・システム」、高密現代都市の理想的環境を構想した「輝く都市」、身体に合う建築寸法の黄金比「モデュロール」、新しく自由な建築のための要点「近代建築の五原則」などを発表し、世界に多大な影響を与えた。また、世界中の様々な都市の計画・構想に関わった。

●ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸 (パリ、フランス、1923-25): 施主は銀行家ラウル・ラ・ロッシュとコルビュジエの実兄アルベール・ジャンヌレで(2世帯住宅)、現在はル・コルビュジエ財団。1926年に提唱する「近代建築の5原則」の構想が取り入れられた初期の重要作。

●ロンシャンの礼拝堂 (ロンシャン、フランス、1950-55): 打ちっ放しのコンクリートとスタッコ(石灰)仕上げでできた白くて分厚い曲面の壁と、カニの甲羅をモチーフにしたと言われるシェル構造の屋根が特徴的で、コルビュジエ晩年の傑作として名高い。

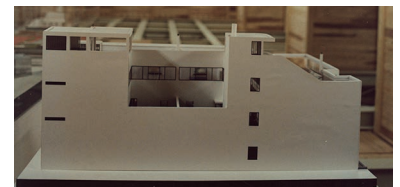
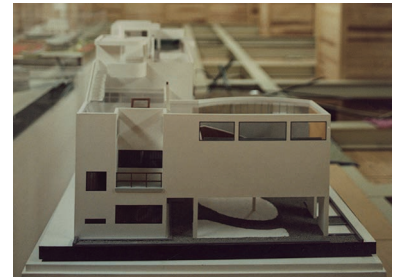
●ラ・トゥーレットの修道院 (リヨン、フランス、1953-59): ロンシャンの礼拝堂と並びコルビュジエ後期の代表作と言われる。全体は打ちっ放しのコンクリートで直線だけのデザイン。自然光を巧みに取り入れ、明と暗の織りなす厳粛な瞑想空間を作り出している。

【会期】 2016年10月25日(火)～2017年3月26日(日)

【開館時間】 10:00-17:00 ※入場は16:30まで

【休館日】 月曜日(1月2日・9日、3月20日を除く)、  
年末年始(12月27日(火)～1月1日(日・祝))、  
1月4日(水)・10日(火)、3月21日(火)  
臨時休館(1月23日(月)～3月17日(金))

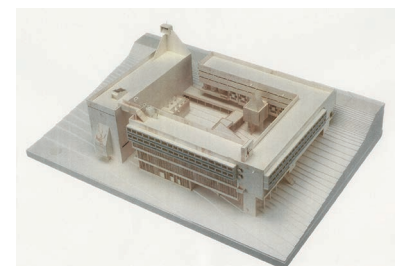
【観覧料】 無料



《ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸》建築模型  
(上下2点とも)



《ロンシャンの礼拝堂》建築模型



《ラ・トゥーレットの修道院》建築模型